

令和6年度

(第1回)

# 豊橋市 子ども・子育て会議

日 時 令和6年 5月23日(木)

場 所 豊橋市上下水道局5階 大会議室

令和6年度 第1回  
豊橋市 子ども・子育て会議

日時：令和6年5月23日（木）  
午後10時～午後11時15分  
場所：豊橋市上下水道局大会議室

出席者

豊橋市子ども・子育て会議 出席者12名

事務局

ただいまから令和6年度第1回豊橋市子ども・子育て会議を開催させていただきます。  
はじめに豊橋市こども未来部長よりごあいさつ申し上げます。

こども未来部長よりあいさつ

事務局

ありがとうございました。続きまして佐野会長よりごあいさつをいただきます。

佐野会長よりあいさつ

事務局

ありがとうございました。

委員の欠席についてはお手元の名簿の通りですが、今回から新たに委員となられた方につきまして、お名前のみご紹介させていただきます。

豊橋市議会 福祉教育委員会 委員長 川原様

豊橋保育協会 会長 大橋様

よろしく願いいたします。

それでは議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

事前にお送りさせていただいた資料は、次第と資料1から資料4までです。机上に配布させていただいた資料が、委員名簿と、配席図、豊橋市子ども・子育て支援に関するニーズ調査調査結果報告書になります。

それではここからは会長に議事進行をお願いいたします。

佐野会長

それでは議題1「子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果 について」事務局から説明をお願いします。

事務局より議題1について説明

佐野会長

ありがとうございました。

何かご質問等ありますでしょうか。

佐野会長

続きまして、議題2「豊橋市 こども計画（第3期 豊橋市 子ども・子育て応援プランの策定について）」事務局から説明をお願いします。

## 事務局より議題2について説明

佐野会長

ありがとうございました。  
何かご質問等ありますでしょうか。

佐野会長

基本理念の「えがお」をひらがな表記とする理由がありますでしょうか。

事務局

文部科学省の小学校の常用漢字には「笑」と「顔」は含まれるが「笑顔」は含まれないため、ひらがな表記としています。

吉田委員

現場で子どもを見ていると、子ども時代に過ごしたことが社会でどのようにして自立につながるのかという視点が重要であると感じます。子どもが一人ひとり大切にされることによって、自分の根がありそこからしっかりしていき人のことを考えられるようになることはみなさんご存じのことですが、その周りを取り巻く大人たちへのアプローチを並行して行う必要があると考えます。子どもが自分たちと同じように寒い、暑いを感じるができることが大切という基本的なことをわかっている親がどれくらいいるのか、そのような感覚をもち子どもを育てるための親へのサポートを含めて子どものことを真ん中に考えることが必要になると思います。子どものことだけ考え、子どもをみんなで守るとなると守られた中で育った子どもは社会に出て厳しい思いををすると思います。

学校に行けない、市立高校もたくさんの応募があり入れなかったという情報も聞いた。私的にやっている学院も生徒がものすごく増えています。地域で子どもを支えて地域の近隣の学校へ行くことも普通に行えない社会は子どもまんなかなののだろうかと思います。原案に反対するわけではないが、ここにもうひとつ何か考えがないと次につながっていかないと考えます。

金仙委員

「すべてのこどもたちが夢や希望を持って」ということだが、主語を大人を含めた「人が」に置き換えられることが必要だと考える。子どもを同じ人権を持った人として見る必要があり、大人が環境を整えて何とかするのが子ども真ん中ではなく、子どもも大人も同じように人権があり、みんなでこういう社会にしていこうと考えることを大人が理解していることが基本理念を作るうえで重要である。

佐野会長

子どもの権利を笠に着て大人が権利を主張するケースがあるので気を付ける必要がある。

小野委員

企業としてはこのような計画を策定した後、どのような取り組みができるか考え実行することが企業の役目と考えている。

#### 堀井委員

学校では子どもの笑顔を第一に考え、毎朝校門に立っている。生徒とあいさつを通じて、元気であるか、悩んでいるかなど様子がわかり職員に共有している。

笑顔や元気な姿が真ん中にあることはとても良いことだと考えており、計画策定された後は、教育委員会を通じて学校もできることを実施していく。

#### 川原委員

子どもを育てるには20人の大人が必要と考えている。この計画がより多くの大人に周知されることが重要だと考える。

「7子どもの病気の際の対応（2）子どもが休んだときの対処方法」について、「父親が仕事を休んだ」の割合が、平成30年度調査と比較すると、就学前児童、就学児童ともに2倍以上となっているとのことだが、フルタイムで就労する母親の割合が増加していることがこの結果につながっているのか疑問に思う。母親がパートで休めないから父親が休むケースもあるのではないか。

#### 古川副会長

子どもが見てわかることがこどもまんなかであると思うが、計画の体系の中でこどもまんなかがわかる表現にできるといいと思う。

計画体系（案）は資料のとおりか。

#### 事務局

今回お示しした資料はたたき台であるが、現行の計画とは見せ方を変えていく想定である。次回の会議にはもう少し詳細をお示しできると考えている。

#### 古川副会長

1～3番までの施策は、従来通り市が実施できるものであると考えているが、4番以降の施策は実施できることがどれだけあるのか、実施していくことも難しいものであると思う。

子どもにもこの計画を見てもらえるような施策を実施できればいいと思う。

#### 佐野会長

今までは「子どもに寄り添う」ということを重視されていたが、寄り添うだけでなく今回は「こどもまんなか」として子どもの立ち位置に立つよう言われている。子どもの大事な時期を周りの人に大切にされたという愛着形成を大人が保障するような社会を作ることが重要であると思う。

佐野会長より閉会の挨拶